

# ヨコハマヘリテージのこの1年

設立2年目に入った平成22年度は、自主企画のセミナーの開催や関連団体のイベントへの協力など、充実した1年となった。とくに、文化庁の「平成22年度地域伝統文化総合活性化事業」の採択を受けることができ、シンポジウムや研修会の開催など、多彩な取組をすることができた。(採択事業名「横浜の近代建築資産の保存・活用によるまちの魅力づくり」)

## 平成22年度地域伝統文化総合活性化事業 「横浜の近代建築資産の保存・活用によるまちの魅力づくり」

### ヨコハマヘリテージセミナー「絹が育てた横浜の近代建築」(3回シリーズ)

「横浜の近代建築資産の保存・活用によるまちの魅力づくり」の一環として、絹とのかかわりに視点を置いて横浜の近代建築を紹介する、3回シリーズのセミナーを開催した。

開港都市横浜の人・もの・文化の流れにとって大きな役割を果たした「絹」。第1回は、象の鼻・転車台を中心に、「絹」を介して世界につながっていた横浜の港湾部の歴史的建造物にスポットを当てた。第2回は、養蚕から輸出まで、横浜市内の生糸にまつわる建物を紹介するとともに、シルク博物館を見学した。最終回となる第3回は、絹でつながる地域の方々とともに、「シンポジウム」として開催した。第3回は、あいにくの雪にも関わらず、多くの方にご来場いただいた。

#### 1 象の鼻・転車台

日時：平成22年7月25日(日) 13:00～16:00  
場所：[講演] BankART Studio NYK  
[見学] 象の鼻パーク周辺の港湾施設ほか  
講師：堀勇良(建築史家)

#### 2 生糸がつくった建物、生糸を守った建物

日時：平成22年11月27日(土) 10:30～13:00  
場所：[講演] 横浜市開港記念会館  
[見学] シルク博物館と山下町界隈  
講師：吉田銅市(横浜国立大学大学院教授)

#### 3 シンポジウム「絹が育てた横浜の近代建築」

日時：平成23年2月11日(金・祝) 13:30～16:30  
場所：ヨコハマ創造都市センター



#### プログラム

- ・講演I「横浜開港とシルク貿易」  
小泉勝夫(シルク博物館専門員)
- ・講演II「絹が育てた歴史的建造物と町並」  
後藤治(工学院大学教授)
- パネルディスカッション「絹でつなぐまちづくり」  
パネリスト  
・星和彦(NPO法人街・建築・文化再生集団)  
・松尾俊彦(町田市街づくり審査会委員)  
・北澤克夫(協同組合ギルダ横浜)  
・吉田銅市(横浜国立大学大学院教授)
- コーディネーター：米山淳一(当法人常務理事)
- コメンテーター：後藤治(工学院大学教授)
- 後援：特定非営利活動法人街・建築・文化再生集団

### 「歴史的建築資産を守る人材研修会」

同じく「横浜の近代建築資産の保存・活用によるまちの魅力づくり」の一環で、「人材研修会」を開催した。

会場は、市指定文化財でもある「旧横溝家住宅」(鶴見区)と、国重要文化財である「横浜市開港記念会館」(中区)。歴史的建築資産の保存・活用に関心があり、担い手になる方を対象とした研修会で、建築を学ぶ学生、建築の専門家、歴史的建造物の所有者や管理に携わる方などが参加し、熱心な質疑や意見交換も行われた。

#### 第1日目

日時：平成23年2月5日(土) 10:00～12:30  
会場：旧横溝家住宅  
プログラム  
・「民家の保存・活用事例における横浜市の特徴」  
講師：大野敏(横浜国立大学准教授)  
・見学・保存・活用の取組事例紹介・参加者の意見交換、講師への質問



#### 第2日目

日時：平成23年2月26日(土) 13:30～16:45  
会場：横浜市開港記念会館  
プログラム  
・総論1「歴史的建造物の掘り起こしから、保存、修復、活用のながれ」  
講師：西和夫(神奈川大学工学研究所客員教授)  
・総論2「横浜市の歴史的建造物の現状と行政の取り組み」  
講師：横浜市都市デザイン室・生涯学習文化財課  
・「わが国の歴史的建造物の保存・再生小史」  
講師：内田青蔵(神奈川大学教授)  
・保存・活用の取組事例紹介・参加者の意見交換、講師への質問

## 平成22年度マザーポートエリア活性化推進事業

「マザーポートエリア活性化推進事業」(横浜市)を活用して、絵画展とセミナーからなる「ヨコハマヘリテージ山手ウィーク」を開催した。

#### ■絵画展

日時：平成22年10月23日(土)～30日(土)  
場所：ペリックホール

#### ■セミナー

日時：平成22年10月23日(土)  
場所：フェリス女学院10号館  
講師：関和明(関東学院大学教授)  
現地解説：松井健(鹿島建設株式会社)

#### 「中尾良一氏が描いた歴史的建造物絵画展」

山手の西洋館、ペリックホールを会場に、山手地区をはじめとする横浜の歴史的建造物やまちの魅力を伝える絵画展を開催した。今回の絵画展では、中尾良一氏のご家族のご協力のもと、ヨコハマヘリテージの前身である「横浜市歴史的資産調査会」に寄贈された氏の作品23点を展示した。



#### 山手の歴史的建造物を極める!!

～街並みの成り立ちから現在まで～

セミナーでは、山手地区の街並の成り立ちや、山手を舞台にした歴史上の出来事が紹介された。会場は、近年、外観の修復を終えた「フェリス女学院10号館」(昭和4[1929]年、A.レーモンド設計)で、非公開の建物内部の見学会も行われた。当日は「OPEN! HERITAGE in 山手」との同時開催ということもあり、多くの方が時間をかけて山手を楽しんでいた。

### 横浜産業遺産・旧帝蚕倉庫赤レンガ市民配布事業への協力

昨年10月31日に開催された「横浜産業遺産・旧帝蚕倉庫赤レンガ市民配布事業」(主催：旧横浜帝蚕倉庫顕彰実行委員会)に、募集事務局として運営協力をした。レンガ

の有償配布(配布数300)へは1310通もの応募があり、応募の際に帝蚕倉庫の思い出を語る方も多く、市民に愛されて来た建物であったと感じることができた。



### 「ヨコハマヘリテージ」のご紹介

一般社団法人 横浜歴史資産調査会(通称YOKOHAMA HERITAGE ヨコハマヘリテージ)は、歴史的建造物に係る専門家の団体です。昭和63[1988]年に「横浜市歴史的資産調査会」として発足し、以来20年間にわたり、横浜市と連携して歴史的建造物の調査や保全活用に関する研究を進め、「歴史を生かしたまちづくり」を推進してきましたが、平成21年6月2日、横浜開港150周年を迎える年の開港記念日に、一般社団法人として新たなスタートを切りました。これまでの蓄積を活かし、歴史的資産の保全活用に関する調査研究、セミナーや見学会等の普及啓発を中心に、幅広い活動を行ってまいります。

#### 事業内容

- 1 歴史的資産(神社・寺院、古民家、近代建築、西洋館、近代和風建築、土木産業遺構、歴史的地区)の保全と活用に関する調査研究
- 2 調査研究によって得た成果の普及啓発
- 3 歴史的建造物の修理・改修等を担当する人材の育成及び支援
- 4 歴史的建造物所有者からの相談に対する対応
- 5 行政及び関連団体との連携事業
- 6 その他設立目的遂行に必要な事業

#### 組織

- 役員 ※平成22年度  
代表理事(会長)：宮村 忠(関東学院大学名誉教授)  
理事(副会長)：吉田銅市(横浜国立大学大学院教授)  
常務理事(事務局長)：米山淳一(地域遺産プロデューサー)
- 社員 ※五十音順  
稲葉和也(建築史家)  
内田青蔵(神奈川大学教授)  
内山哲久(近畿日本鉄道株東京支社)  
大方潤一郎(東京大学教授)  
大野 敏(横浜国立大学大学院准教授)  
小沢朝江(東海大学教授)  
黒田泰介(関東学院大学准教授)  
坂本勝比古(神戸芸術工科大学名誉教授)  
鈴木伸治(横浜市立大学准教授)  
関 和明(関東学院大学教授)  
高橋志保彦(神奈川大学名誉教授)  
中藤誠二(関東学院大学准教授)  
中村 實(前・東北文化学園大学教授)  
西 和夫(神奈川大学工学研究所客員教授)  
堀 勇良(建築史家)  
水沼淑子(関東学院大学教授)

### 「都市の記憶」改訂第5版3月1日発売!

横浜市内の代表的な歴史的建造物を紹介する冊子「都市の記憶—横浜の主要歴史的建造物—」を発行しました。6件の歴史的建造物や、新たな情報が加わっています。横浜市役所1階市民情報センター、有隣堂等で販売。(一部600円)



#### 会員募集!

### ヨコハマヘリテージサポートクラブ

ヨコハマヘリテージでは、会の活動を支えてくださる会員を募集しています。本会の主旨に賛同して下さる方であれば、どなたでもご入会いただけます。会費は「歴史を生かしたまちづくり」に向けた会の活動に当てさせていただきます。

#### ●個人会員

対 象	本会の趣旨に賛同して下さる個人の方
年会費	3,000円(年度単位4月1日から翌年3月31日)
特 典	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史を生かしたまちづくり 横浜新聞」最新号のお届け</li> <li>・会員向けメールマガジンの発行</li> <li>・セミナー、イベント等の情報提供</li> <li>・有料セミナーの割引 ほか</li> </ul>

このほか、団体会員、賛助会員もごいます。ご入会のお問合せは事務局まで(ホームページからもお申し込みいただけます)

歴史を生かしたまちづくり  
**横濱新** 聞

#25

平成23(2011)年3月18日発行



横浜市認定歴史的建造物を1件認定!

平成22年2月、インペリアルビルを横浜市認定歴史的建造物に認定した。外国人向けの長期滞在施設として建てられた鉄筋コンクリート造、地上5階の近代建築で、大きなガラス面や直線的なデザインが特徴的である。横浜において当時最先端のスタイルを試みたモダニズム建築であり、建築史的、技術史的価値の高い建物。港湾、そして海外との貿易で発展した横浜の歴史を示すものであり、また、震災後の旧居留地の景観を残している建物としても希少な遺構である。今回の認定により、認定件数は80件となった。

発行：横浜市都市整備局都市デザイン室  
 横浜市中区港町1-1 TEL 045-671-2023 FAX 045-663-8641  
 編集協力：一般社団法人横浜歴史資産調査会(YOKOHAMA HERITAGE)

インペリアルビル 撮影：米山淳一

インペリアルビル **モダニズム** さんさん 燦燦

吉田鋼市

(横浜国立大学大学院教授・横浜歴史資産調査会副会長)

知る人ぞ知るハマのモダニズムの記念碑、インペリアルビルが認定歴史的建造物になった。水町通りの県民ホールの前あたりにあって、当初は「インペリアル・アパートメント」という外国人用アパートだった。昭和5〔1930〕年の竣工。「インペリアル」というやや東洋的エキゾチズムの漂う名前がつけられているが、建物のスタイルも文字通りインターナショナル、住んでいる人もインターナショナルなコスモポリタンのアパートであった。施主は上田要蔵で、それでこのビルは「上田屋ビルディング」とも「上田屋ビルディング第二号館」とも呼ばれている。『横浜市商工案内』(昭和5年)によると、上田要蔵は弁天通2丁目「上田屋絹シャツ店」を経営している。

設計は、A.レーモンド、山越邦彦とともに戦前の横浜でモダニズムの建築を先導した川崎鉄三(?-昭和7〔1932〕年?)。レーモンドの不二家(昭和13〔1938〕年)、山越の耀堂ビル(昭和6〔1931〕年、現・日本穀物検定協会横浜支部)と並ぶ最もモダニスティックな

建物である。川崎に残した建物のなかでも最もインターナショナルでモダン。施工は白井工務店。東京芝区の桜田備前町(現・西新橋)にあり、白井甚次郎という人が営んでいた建設会社で、このころの東京のいくつかの大きな建物の施工を行っている。

インペリアルビルは日本建築学会編纂の『東京・横浜復興建築図集』(昭和6年)にも「横浜外人アパートメント」として出ており、また『建築研究』という雑誌の昭和5年12月号にも「イムペリアル・アパートメント」として出ているから、当初からその斬新さが注目されていたことになる。実際、ここには水平に連続する窓というモダニズムの建築の目標の一つが完全に実現している。荷重を支持する厚く重い壁をなくし、壁のかわりに凹凸がない連続する一枚の薄い膜のようなもので内部を包みたいという欲求の産物であった。そして全体がガラスで覆われた間仕切りのない一室の大きな空間というのが究極の理想であったが、その端緒がここにある。もっとも、

この連続する窓の部分はベランダのようになっていて奥の部屋とは連続しておらず、いってみればガラスの覆い付きのベランダという感じだが、ともあれ、明白なモダニズムの造形の出現である。まさに燦燦としたモダニズムの輝き。玄関が真ん中ではなく右端のほうに設けられており、そのかわりに左の端のほうにバルコニーが張り出している。そのバルコニーは角を丸くしたもので、これもまたモダン。内部もまた斬新で、寝室と居間と浴室とトイレを備えた最新の住宅であった。

戦後、10年以上も接収されており、その間に屋上に増築がされたりしているが、驚くほどよく当初の姿をとどめている。といつつ少しも古臭くなく、80年も前のビルとは信じがたい。接収解除後もしばらくはアパートとして使われ、昭和39〔1964〕年ころから現在の名のオフィスビルとして使われ、今日に至っている。わがヨコハマヘリテイジも、この古くも眩しいような歴史的資産の中にある。



ジャパンエクスプレスビル



昭和ビル



左右：インペリアルビルの玄関周辺



撮影：米山淳一

# 川崎鉄三 昭和初期の横浜のモダニズム建築の先駆者

吉田鋼市 (横浜国立大学大学院教授・横浜歴史資産調査会副会長)

川崎鉄三は、大正14〔1925〕年から昭和6〔1931〕年までのわずかの期間の横浜に、珠玉のような作品を残して消えた。石川県の出身と考えられ、明治45〔1912〕年に東京高等工業学校(現・東京工業大学)建築科の選科を修了している。台湾など海外での勤務の後、大正8〔1919〕年から13〔1924〕年まで福井県庁に勤め、さらに短期間東京で仕事をし、大正14年の若尾幾太郎商店のビル新築の設計とともに横浜にやって来て、「本町工務所」を主宰している。これ

は若尾商店の建築部のような存在であったらしく、事務所も若尾ビル内にあった。この若尾ビルが川崎鉄三の横浜デビュー作であるが、現存しない。

その後の彼の作品は、東京電灯株式会社横浜支店(昭和3〔1928〕年)、亀の橋病院(昭和4〔1929〕年)、加藤商店(昭和4年)、インペリアル・アパート(昭和5〔1930〕年)、ジャパン・エクスプレス・ビル(昭和5年)、カスタム・ブローカー・ビル(昭和6〔1931〕年、現・昭和ビル)とされるが、このうち最後の

3つが現存。ただし、キッコーマンビルとして使われていた双子のビル、カスタム・ブローカー・ビルの半分は、平成12年に解体。ついでにいうと、横浜貿易協会ビルの施工監理は川崎鉄三であり、横浜海洋会館も横浜貿易協会ビルと同じ大倉土木の設計・施工であるから、横浜海洋会館にも川崎が関わっている可能性がある。つまり、日本大通りの先端から大棧橋へと至る一画の建物群は川崎鉄三の輝けるモニュメントということにもなる。

彼の作品は、東京高工同期の須藤真金が発行していた『建築研究』という雑誌でしばしば紹介されているが、その須藤の同誌の随筆内容からすると彼は昭和7〔1932〕年に亡くなったものと推察され、昭和6年以降は日本建築学会会員名簿からも彼の名が消える。普通に20代前半で学校を出ているとすれば、40代半ばに達しない若さで亡くなったことになる。なお、彼の横浜での住所は当初は根岸町坂下、ついで西根岸町である。

## 創建100周年の赤レンガ倉庫が日本初の受賞

## ～ユネスコ文化遺産保全のためのアジア太平洋遺産賞～

今年(平成23年)に創建100周年を迎える赤レンガ倉庫だが、それに先立つ平成22年10月、日本国内で初めて「ユネスコ文化遺産保全のためのアジア太平洋遺産賞」の優秀賞を受賞した。

この賞は、アジア太平洋地域で文化遺産の保全・修復に関する民間や官民協力を推奨し、その成果を評価する目的で

平成12年に創設された。文化的建築物や庭園などで築50年以上、官民共同の保全・修復といった条件を満たすものが対象となっている。

ユネスコは、今回の受賞理由として「9年にわたる繊細な修復作業により、現代的なスタイルの複合施設を楽しみながら産業遺産を顧みることのできる都市空間

としてよみがえった。官民の優れたパートナーシップにより、横浜のウォーターフロントにおける都市再生のきっかけとなった」点を挙げており、これまでの取組が高く評価された。

4月には受賞式典が赤レンガ倉庫で行われる予定で、創建100周年に大きな花を添えることになるだろう。



赤レンガ倉庫

## 横浜税関本関 公共建築賞受賞

第12回公共建築賞(社団法人公共建築協会主催)の行政施設部門で、横浜税関本関が最も優れた建築物として国土交通大臣の表彰を受けた。公共建築の総合的な水準の向上に寄与することを目的とした賞で、全国123点の応募建築物から選ばれ受賞となった。復元・改修された既存部分と増築部のモダンなデザインとが調和した設計・施工や、地域に開かれた施設となっていることなどが評価された。



横浜税関本関

撮影：米山淳一

## 旧伊藤博文金沢別邸が学生の手によってライトアップ!

金沢区の野島公園内にある横浜市指定有形文化財「旧伊藤博文金沢別邸」は、改修工事を経て平成21年10月から一般公開され、建物を生かした活用に取り組んできているところだが、平成22年9月24日、新たな試みとして関東学院大学の学生達によってライトアップが行われた。

このライトアップは、金沢区が区内の大学と連携して行っている「キャンパスタウン金沢」によるもので、横浜市緑の協会、ヨコハマ夜景演出事業協議会などの

協力により、関東学院大学水沼研究室の学生達が企画・実施した。当日はあいにくの天気となったが、お月見コンサートも催され、訪れた100名以上の方が明治の趣を持つ建物の夜の表情を楽しんでいた。



上：ライトアップの様子 下：コンサート風景

## 外交官の家 祝100歳!

山手西洋館のひとつ「外交官の家」が、明治43〔1910〕年の創建から100年を迎えた。そのことを記念し、(財)横浜市緑の協会が平成22年11月に多彩なイベントを開催。外交官の家は、渋谷区南平台に建てられた内田定槌邸として創建され、平成9年に横浜の山手に移築復元された。今回のイベントのひとつでは、館に伝わる100年前のおもてなしメニューが再現され、参加者はダイニングルームでこの建物を横浜市に寄附した宮入久子さんと

ともに料理を味わいながら、当時の外交官の暮らしぶりに想いを馳せた。ほかの日には、移築復元のきっかけをつくった陣内秀信教授(法政大学)による講演や、能と狂言の鑑賞会も行われ、訪れた人々が思い思いに100周年を祝った。



左:ディナーの様子 右:テーブルコーディネイト

## 山手聖公会 壁面改修工事が完了

J.H. モーガン設計、昭和6〔1931〕年竣工で、山手のモニュメンタルなランドマークの一つである山手聖公会の教会堂の外壁改修が行われた。

教会堂は、鉄筋コンクリート造の表面に大谷石を貼り、石造風の重厚な外観が特徴的である。

改修は外壁部分の大谷石の装飾など、老朽化が進んでいる部分の補修を中心に行われた。今回の改修は石の装飾が多いことから、F.L.ライト設計の帝国ホテルを明治村へ移築する際に大谷石の工事を担当した職人が親方として参加し、工事の万全を期した。改修工事が行われ、創建から約80年の歳月が経過した教会堂の姿は今もなお輝きを放っている。



改修後の山手聖公会

## 伊東医院 外観保全改修終了

大正14〔1925〕年に竣工し現在まで医院として利用されている、戸塚区伊東医院の外観保全改修が行われた。

洋館部分と和館からなる医院併用の住宅で、改修は屋根の葺き替えを中心に、洋館の外壁左官仕上げの部分補修、建具改修、外壁木部の塗装などが行われた。また、外部木部が創建当初は軍艦色(ブルーグレー)であることが判明し、これにより創建当初の色での改修が行われた。創建当時の伝統工法による施工が難し

いとされている現在、所有者、設計者、施工者の熱意により、歴史的な価値を失うことなく、無事保全改修が完了した。



改修後の伊東医院

## 震災復旧時の長浜検疫所の資料が見つかる

吉田鋼市(横浜国立大学大学院教授・横浜歴史資産調査会副会長)

明治28〔1895〕年に建てられ震災後に復旧を受けた長浜検疫所のうち、一号停留所(現・横浜検疫所資料館)と細菌検査室(現・野口記念館)が健在であり、事務所棟が横浜市長浜ホールとして再現されているが、この長浜検疫所の震災復旧時の資料一式が神奈川県立公文書館に保管されていることがわかり、同館の中根賢氏の詳細な調査により、震災復旧の工事は既存建物の旧材を多く用いた修理工事であったこと、設計は県営繕で担当は内海清隆(明治26〔1893〕年

生まれ、工手学校〔現・工学院大学〕卒)であること、施工は久良岐組と大林組であることなどがわかった。



一号停留所(現・横浜検疫所資料館)

## 明治の鉄橋が生まれ変わります! 旧江ヶ崎跨線橋



■旧江ヶ崎跨線橋の概要  
種別:土木産業遺構/建築年:明治29〔1896〕年/  
設計者:不詳/施行者:不詳/管理者:横浜市民道  
路局/(解体保命中)

鶴見区にある新鶴見操車場の跡地にあった「旧江ヶ崎跨線橋」は、架け替えのため撤去されていたが、今回、プラットトラスの部材を活かして、中区新山下地区の「霞橋\*」として生まれ変わることが決まった。

旧江ヶ崎跨線橋は、旧国鉄の荒川橋梁(明治28〔1895〕年、ポニーワーレントラス)と隅田川橋梁(明治29〔1896〕年、プラットトラス)を、新鶴見操車場の建設によって分断される地域を結ぶ橋として転用し、昭和4〔1929〕年に架

梁で、「かながわの橋100選」や土木学会の「鉄の橋百選」に選定されるなど、土木遺産としての価値が高いものとされていた。

老朽化や幅員不足により架け替え工事が進められていたが、明治29年製作のプラットトラス部分の部材を活用し同じく架け替えが予定されていた「霞橋」として3度目の人生を送ることになった。もとの橋長60mの橋2連から約30mの橋となる予定だが、貴重な明治期の土木遺産が再生されることで、新たな都市の記憶の誕生につながることを期待したい。

\*中区新山下地区にあり、新山下運河を渡る橋梁。認定歴史的建造物の「霞橋(西区)」とは別の橋である。

## “OPEN! HERITAGE in 山手”開催!

落ち葉が色づく平成22年10月23日、山手において「OPEN! HERITAGE in 山手」が開催された。山手地区の歴史的建造物を公開するこのイベントに快く賛同し内部を公開したのは、アントニン・レーモンドの設計で知られるフェリス女学院10号館、そして、横浜市が所有し現在は(財)横浜市緑の協会が管理運営している西洋館のうち、外交官の家(塔屋)、山手111番館(2階バルコニー)の3館。当日は朝から快晴に恵まれ、公開は午後の半日であったが予想を上回る166人の参加者が山手の歴史に思いを馳せながら歴史的建造物巡りを楽しんだ。外交官の

家と山手111番館では各館の館長から施設の歴史も語られた。

当日は西洋館ではハロウィンのイベントが行われており、ハロウィンイベントを目標に西洋館を訪れた方の中には「是非公開イベントに参加させてほしい」という声を多く聞くことができた。



フェリス女学院10号館公開の様子